

造り手の顔が見えること

四国経済連合会常任理事(株)穴吹工務店代表取締役社長) 穴吹 英隆



2008年も終わりを迎えようとしているが、本年も実に多くの事件・事故が起きた。中でも中国産の冷凍餃子や冷凍インゲンへの毒物混入は、日々の「食」を脅かし、食料の多くを輸入に頼る我が国の食料自給率の低さとも相まって大きな問題となった。

こうした中、先日、香川県内の「産直市」が活況を呈しているとの新聞報道を目にした。食品の産地偽装も続く昨今、本当に信じられるのは、生産者の顔が見えるものしかない、という消費者心理の表れだろう。地元農家の方々が丹精を込めて作った農作物を、仲介を経ずに販売する「産直市」のシステムは、消費者にとって生産者の顔が見える安心感に加えて、新鮮、安価というメリットがある。生産者にとっても、直接消費者と触れ合うことで、自分の商品（農作物）に対する意見・評価を、農作物づくりに反映させることもできるだろう。そして、消費者と向き合って作ったものには自信と誇りが生まれる。

弊社は分譲マンション業界においては珍しく、自社で用地取得から企画、設計、施工、販売し、自社グループで住まわれてからのアフターサービスも行う独自の一元体制を構築している。そして、弊社事業の主力である分譲マンション「サーパス」を、我々は「商品」ではなく「作品」と呼んでいる。それは自分たちでお客様の声を

直接受けとめながらひとつひとつ手作りしているからで、社員一同、自分たちの「作品」に自信と誇りを持っている。

住宅業界では2005年11月に一級建築士による耐震強度偽装問題という、大きな事件が発生した。この事件を教訓に昨年の改正建築基準法をはじめ、業界の制度全体が大きく見直されている。しかし、こうした事件が発生した要因のひとつに、住まいの造り手が買い手と直接触れ合わなかったことがあるように思う。先ほど弊社の事業スタイルを業界では珍しいと述べたが、分譲マンションの多くは設計・施工と販売が別企業であり、自分が設計・施工した住まいに、どのような方が住み、そしてどのような思いで日々暮しているのか、伝わらないケースが往々にしてある。

幸い、弊社はこれまで7万戸を超える「サーパス」を供給し、お客様からのお誉めの言葉、お叱りの言葉を直接頂きながら、現在では北は北海道から南は鹿児島まで「サーパス」を供給してきた。そして、戸建や賃貸を合わせた累計の住宅供給戸数は今年10万戸を達成するという節目の年も迎えさせて頂いた。皆様からの変わらぬご愛顧・ご期待に応えるためにも、今後とも自信と誇りを持って、皆様から顔が見える住まいの造り手として、安心・安全な住まいを提供していきたい。